

●はじめに

※財務会計学習中の方が対象です。

♪本講義の目的

①直前期までの学習方法

→ 特に、直前期に入るまでに整理しておきたい領域！

※直前期からの学習方法としても参考に出来るポイントです。

②2次試験との関連領域

→ 早期に本試験の傾向を知ることが大切です。

●本試験問題の分析(本試験の傾向を把握する)

♪目的は、本試験に合格することです（敢えて言うことでもないですが・・・）。

そのためには、本試験の傾向を早めに把握することです。

『着眼点』

①アカウンティング（制度会計・管理会計）とファイナンスのバランス

②計算問題と文章問題のバランス

※文章問題→語句問題、推定問題等の出題あり

まずは、計算力を鍛えることが大事です。その場合に、計算だけに注力せずに、用語の意味を押さえていくと効果的です。例えば、減価償却費の計算・仕訳など問題に関連して、減価償却の3要素（取得原価、耐用年数、残存価額）を理解・記憶することです。

【計算力を鍛える・問題の設定を把握する】

計算問題集（1次試験対策を含むTAC本科生用の教材）

スピード問題集（市販書籍）

【本試験の傾向を把握する（領域別）】

過去問題集（市販書籍）

・問題を繰り返し解き、まずは「計算力」を鍛えることが近道です。繰り返さなければ意味がありません。最初から解ける必要もありません。むしろ解けなくて当たり前だと思しましょう（繰り返すことで理解が深まります）。

・出題のされ方（論点）を把握しましょう。たとえば、損益分岐点分析の領域は、どのように出題されているのかを知ること、出題者の要求を把握することができます。

●主要な領域における着眼点 (本試験から何が仕上がっている必要があるのか知る)

財務会計の概要 (1章～2章)			
テーマ	論点	過去問	2次相関
B/S・P/Lの構造	●当期純利益と繰越利益剰余金の関係を把握	H19-1	—
管理会計 (第3章～第4章) ※2次関連			
テーマ	論点	過去問	2次相関
経営分析	●算式の記憶 (流動比率や当座比率の違いなど) ●低い方が望ましい指標 (回転期間・長期安全性) ●期中平均	H21-7 H20-11	○
管理会計	● $S - \alpha S - FC = P$ ($P=0$ のとき、損益分岐点売上高) ●損益分岐点比率・安全余裕率 ●セグメント別損益計算 (限界利益・貢献利益)	H22-9 H21-8 H21-10	○
ファイナンス (第5章～第7章) ※2次関連			
テーマ	論点	過去問	2次相関
設備等投資計算	●現在価値の考え方 ※現在価値後述。 ●FCFの考え方 ●割引率 (資本コスト: WACC) の考え方	H22-12	○
配当割引モデル		H22-15 H21-13 H21-16 H20-15 H20-16	
企業価値 (MM)		H22-14 H20-18	
ポートフォリオ		H22-16 H20-19・20 H19-14	
株価指標		H20-13 H19-12	
オプション取引	●ヨーロピアンオプションの特徴 ●コール・プット、アメリカン・ヨーロピアン の 区 別	H21-19 H19-15	○
制度会計 (第8章～第10章)			
テーマ	論点	過去問	2次相関
B/SとP/Lの関連	●簿記上の取引		×
仕訳・転記	●勘定科目の計上場所を暗記していること	—	×
精算表等	●決算整理仕訳+集計力が必要 ※必要となる集計力はさほど高くない。	H21-1 H19-2	×
個別計算関連	●値引と割引きの違い ●払出単価の計算・減価償却費の計算等	H22-4 H21-2 H20-2	△
表示科目	●引当金や繰延資産の科目、表示区分等	H20-5	△

CF 計算書	●営業活動 CF の計算（直接法・間接法）	H22-6 H20-6 H19-13	○
株主資本等変動計算書	●配当金・利益準備金積立の取り扱い ※資本金の 4 分の 1 制限	H19-6	△
税効果会計	●一時差異・永久差異の区別 ●将来減算一時差異の発生時の仕訳	H18-7	×
原価計算	●個別原価計算 ●原価の形態別分類、個別・総合原価計算の計算法 ●標準原価計算の計算法	H21-6 H18-8	△

●現在価値

①投資の正味現在価値

各期の CF：C₁、C₂、…C_n

割引率：r（投資家の期待収益率）とした場合

$$\text{現在価値} = \frac{C_1}{(1+r)^1} + \frac{C_2}{(1+r)^2} + \dots + \frac{C_n}{(1+r)^n} - \text{投資額}$$

②企業価値

各期の FCF：FCF₁、FCF₂、…（永久的に続くと仮定）

割引率：WACC とした場合

$$\text{企業価値} = \frac{FCF_1}{(1+WACC)^1} + \frac{FCF_2}{(1+WACC)^2} + \dots \text{（永久的に続くと仮定）}$$

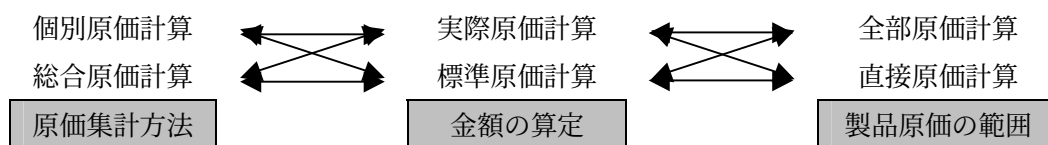
③株式の理論株価

各期の配当：D₁、D₂、…

割引率：r（投資家の期待収益率）とした場合

$$P = \frac{D_1}{(1+r)^1} + \frac{D_2}{(1+r)^2} + \dots \text{（永久的に続くと仮定）}$$

●原価計算の関連性



●勘定科目一覧表

【資産】	【負債】	
※現金	※支払手形	(注) 売上債権の控除項目。B/S 上は資産に表示される。
※受取手形	※買掛金	
※売掛金	※貸倒引当金	
有価証券		
※繰越商品	借入金	(注) 有形固定資産の控除項目。B/S 上は資産に表示される。
貸付金	前受金	
前渡金	※前受収益	
※前払費用	※未払費用	
※未収収益	※減価償却累計額	
※建物		
※備品		
	【純資産】	(注) 株主資本・新株予約権などの表示区分が重要。
	資本金	
	【収益】	
【費用】		
※仕入	※売上	
※給料		
※減価償却費		
※貸倒引当金繰入額	貸倒引当金戻入益	【注】 割引・値引の違い
棚卸減耗損		
商品低価評価損		
売上割引	仕入割引	
手形売却損		
※支払利息	※受取利息	
有価証券評価損	有価証券評価益	
※固定資産売却損	※固定資産売却益	
有価証券売却損	有価証券売却益	
合計 XXX	合計 XXX	

(注) 前渡金は未決済項目、前払費用は経過勘定。

【注】 割引・値引の違い

上記、科目の前にある【※】は、CF 計算書の論点で主に関連するものです。もちろん、前渡金や有価証券評価益なども関連しますが、重要性の観点から外しています。